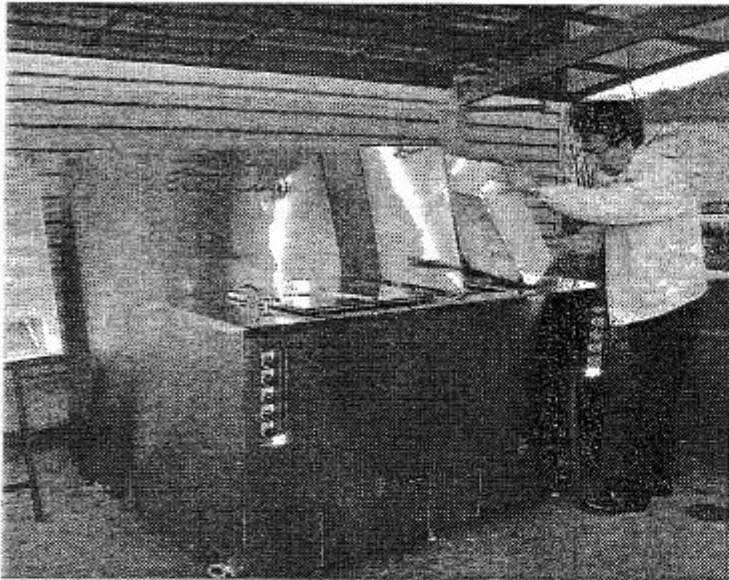


酵素の働きで分解



クリーンフォレスト

業務用生ごみ消化システム

イートボックスを開発

環境製品企画、開発のクリーンフォレスト(香妻町岩井、竹淵博行社長)は、腐葉土と動物の排せつ物の消化酵素の働きで生ごみの98%を分解する業務用生ごみ消化システム「イートボックス」を開発、一日から発売する。動物体内の消化器官と同じ仕組みで、従来の業務用生ごみ処理機と異なり、堆肥や水を出さない。食品リサイクル法(「eコード」)の対象となる食品製造、加工、小売業者を中心に売り込んでいく。

業務用生ごみ処理機は、生ごみを処理して排水するタイプが主流だが、専用の排水施設が必要となり設置場所が限られる。

同社はこの欠点を解消するため、腐葉土と動物の排せつ物をおがくずに吸収、発酵させた独自の「フォレストバイオチップ」を開発。専用処理機水を出さない業務用生ごみ消化システム

で生ごみと混ぜ、動物の消化と同じ効果で、水を出さずに二十四時間以内に生ごみのほとんどを分解するシステムを作り出した。白金の酸化触媒の脱臭効果で匂いも解消した。

専用処理機は二層式。交互に使用することでドアの開閉数を減らし、機内の温度を保ち処理能力を高めることに成功。ゴミの量が少ない時は一つのみを稼働させ消費電力を節約できる。

試験的に栃木県内の小学校の給食残飯やスーパーの売れ残り食品の処理に使ったところ、効果が確認された。同社前に設置している専用処理機は一カ月で約一トの生ごみ

食品リサイクル法

食品業者に食品廃棄物の減量と廃棄物減量求め

行された。対象は年間排出量が100トを超える業者で、06年度までに20%の減量を求める。未達成の業者を義務付ける法律。ダイオキシンや廃棄物最終処分場問題を受け、2001年5月に施行された。

eコード

を義務付ける法律。ダイオキシンや廃棄物最終処分場問題を受け、2001年5月に施行された。対象は年間排出量が100トを超える業者で、06年度までに20%の減量を求める。未達成の業者を義務付ける法律。ダイオキシンや廃棄物最終処分場問題を受け、2001年5月に施行された。

を処理した。

専用処理機はE-40(一日の処理能力四十キ、四百五十万円)とE-70(七十キ、五百五十万円)の二種類。独自システムについて、竹淵社長は「食品リサイクル法の対応を進める業者だけでなく、学校や福祉施設など食品処理に困っているところでも使えるHAPR」だ。